

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 吉田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

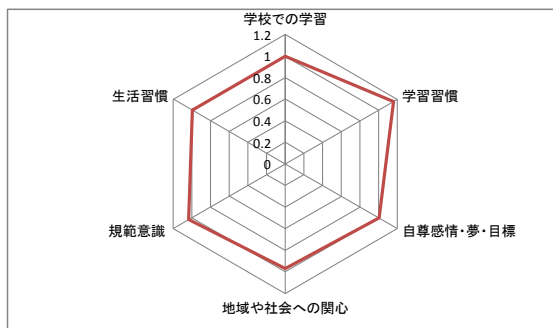
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っているが、話すこと、聞くこと、読むことの項目では全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文脈の中における語句の意味を理解する問題、段落が文章全体の中で果たす役割を捉え内容の理解に役立てる問題、接続詞の働きについて理解する問題、文脈に即して漢字を正しく読む問題	
	努力が必要な問題	段落相互の関係に注意し読みやすく分かりやすい文章にする問題、文脈に即して漢字を正しく書く問題、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う問題、目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く問題	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っているが、話す、聞く能力では全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の構成や展開について自分の考えを持つ問題、全体と部分の関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題、相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っているが、資料の活用では全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	絶対値の意味を理解している問題、単項式どうしの除法の計算、具体的な場面で関係を表す式や等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる問題、折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解する問題	
	努力が必要な問題	指数を含む正の数、負の数の計算、数量の大小関係を不等式に表す、方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解する問題、簡単な連立二元一次方程式を解く問題、証明の必要性和意味を理解する問題	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っているが、数と式、関数の分野では全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉える問題、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する問題、3つの計算の順番を入れ替えた時の計算結果を数学的に表現する問題、グラフから必要な情報を読み取り事象を数学的に解釈する問題、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる問題、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え判断の理由を説明する、付加された条件の下で新たな事柄を見だし、説明する問題	
	努力が必要な問題		
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っているが、自然事象への関心、意欲、態度、知識、理解の分野で全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえないと考察した理由を指摘できる問題、炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に変えない理由を指摘できる問題	
	努力が必要な問題	濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる問題、風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

毎日同じ時間に寝て、起きることができる生徒はほぼ全国平均並であるが、朝食を毎日食べている生徒は低い。学校の宿題は行っているが授業の予習・復習ができていない生徒は少ない。自分にはよいところがあり、将来への夢や希望を持って、規範意識も高いいじめに対して否定的な考えを持つ生徒が平均を超えている。地域をよくすべきだと考えボランティア活動に参加する生徒も多い。数学や理科の学習が大切で将来にも必要であるという意識も高い。課題解決のために話しあい活動等を通じ考えを広げ、深めていくことで学習の必要性が個々の生徒に定着していくよう更にはたらきかけていくことが求められる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・授業の最初に必ずその時間の目標(めあて)を提示し、授業の流れを示し話しあいや発表の機会を確保、及び自ら課題や結果を文章に表し表現説明し、その時間のまとめを必ず行うことで内容の定着を確実にする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・ネットやゲームに関わる時間を少なくし、読書週間等を通じ読書の機会を多く持つようはたらきかけ、継続して活用している吉田ノートを自学自習の中心とし家庭学習の定着を図る。また、将来に対する目標・夢を明確にし、それらの取り組みを学校通信等を通じ保護者・地域との協力を深めていく。